



宇奈多理坐高御魂神社

社は平城宮跡（奈良市）

の東院庭園の北西隣に鎮座します。

社名の「うなたり」は、かつては「菟名足」「宇名足」「宇奈太理」など、さまざまな漢字で書かれました。日本書紀では「伊勢」や「住吉」と並んで「菟名足」として登場。

# 格式高い元法華寺鎮守社

宇奈多理坐高御魂神社（奈良市）



平安時代の延喜式神名帳にも「宇奈太理」を

（住所）奈良市法華寺町600  
（祭神）高御魂尊、天太玉命、思兼命

（交通）近鉄大和西大寺駅からJR

奈良駅西口行きバスで、「法華寺」下車。徒歩約10分  
本殿参拝は毎月1日と15日  
（電話）0742・27・5299

冠した名があり、格式の高さがうかがわれます。当社は法華寺の鎮守社でしたが、明治の神仏分離で「十一面観音像」が法華寺（奈良市）に移され、地元の氏子によって守られています。本殿（重文）は室町時代

前期に建立され、三間社流造り（正面の柱間が三つあり、屋根が前に伸びた建築様式）の檜皮葺き。本殿では高御魂尊など3柱が祭られています。10月第2日曜には秋祭りがあり、現在も本殿で神事が行われますが、かつては「当屋渡り」という神事もありました。こ

れは、その年の「当屋」と呼ばれる稚児が10月1日に本殿から神さまを自宅に迎え、祭当日に本殿まで送ります。境内では五穀豊穡を願う相撲が行われ、前年と前々年の当屋が「東の春日山」「西の生駒山」のしこ名で対戦しました。今は子ども

の減少で中断しています。が、土俵は今も残り、再開が待たれています。  
（奈良まほろばソムリエの会員 八尾鈴子）